

水道料金増額改定後の経営状況について

この資料は、令和7年5月～6月にかけて開催した「水道料金増額改定に向けた説明会」の際に多くいただいたご質問「料金を増額改定したら、経営状況はどうなるのか？」について追加資料として作成しました。

- 料金改定の実施内容（給水条例議決事項）…基本料金・従量料金ともに一律、令和7年度（令和8年1月請求分）から年10%ずつ3年間で30%に段階的に改定

具体的な請求月と改定率

R7年度：R8.1月～R8.3月請求分…10%
R8年度：R8.4月～R8.12月請求分…10%、R9.1月～R9.3月請求分…20%
R9年度：R9.4月～R9.12月請求分…20%、R10.1月～R10.3月請求分…30%
R10年度：R10.4月請求分以降…30%

- 経営状況の見通しについて、説明会資料との違い

項目	料金改定後の見通し	説明会資料
料 金 収 入	令和8年1月請求分から年10%ずつの改定	料金改定を見込んでいない。
企 業 債 収 入	令和7年度以降借入額を増額 （水道施設更新、耐震化等事業費の約65%）	借入額の増額を見込んでいない （水道施設更新、耐震化等事業費の約35%）
令和6年度の値	令和6年度決算速報値を反映	令和6年度当初予算の値
令和7年度の値	6月補正予算を反映（料金改定実施分）	令和7年度当初予算の値

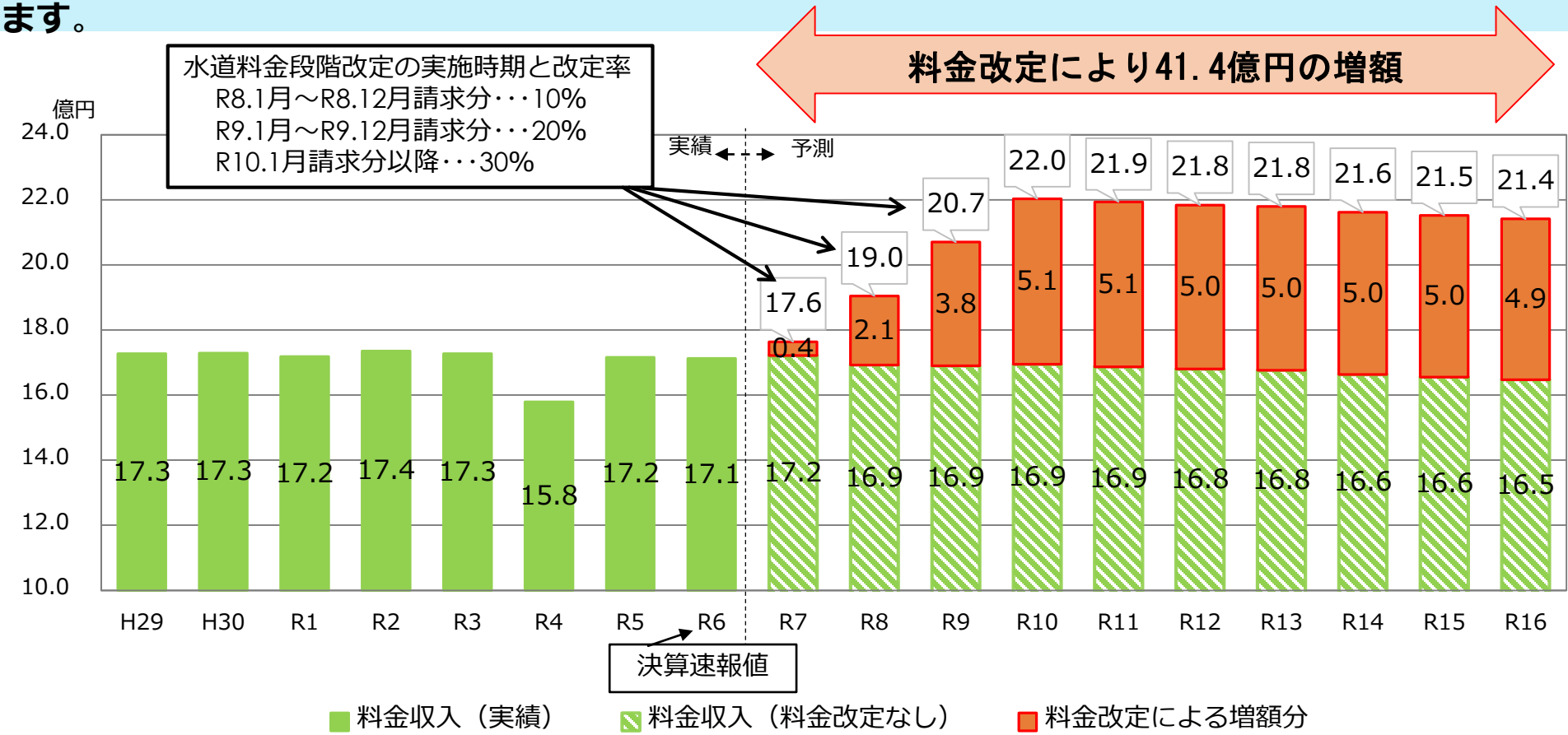
※令和7年7月に改定した「中津川市水道事業経営戦略」に掲載している「料金収入（給水収益）」は、令和7年度～令和9年度に年間10%ずつ3年間にわたり料金改定を実施した場合の収支見通しです。そのため、本資料に掲載する経営状況の見通しとは、数値が一致していません。

水道料金増額改定後の経営状況（料金収入の見通し）

令和7年度（令和8年1月請求分）から令和9年度にかけて年10%ずつ段階的に30%の増額改定を行います。令和7年度から令和16年度の10年間で41.4億円増加する見通しです。

増額となる料金収入を財源にして、水道施設の更新や耐震化を進めます。

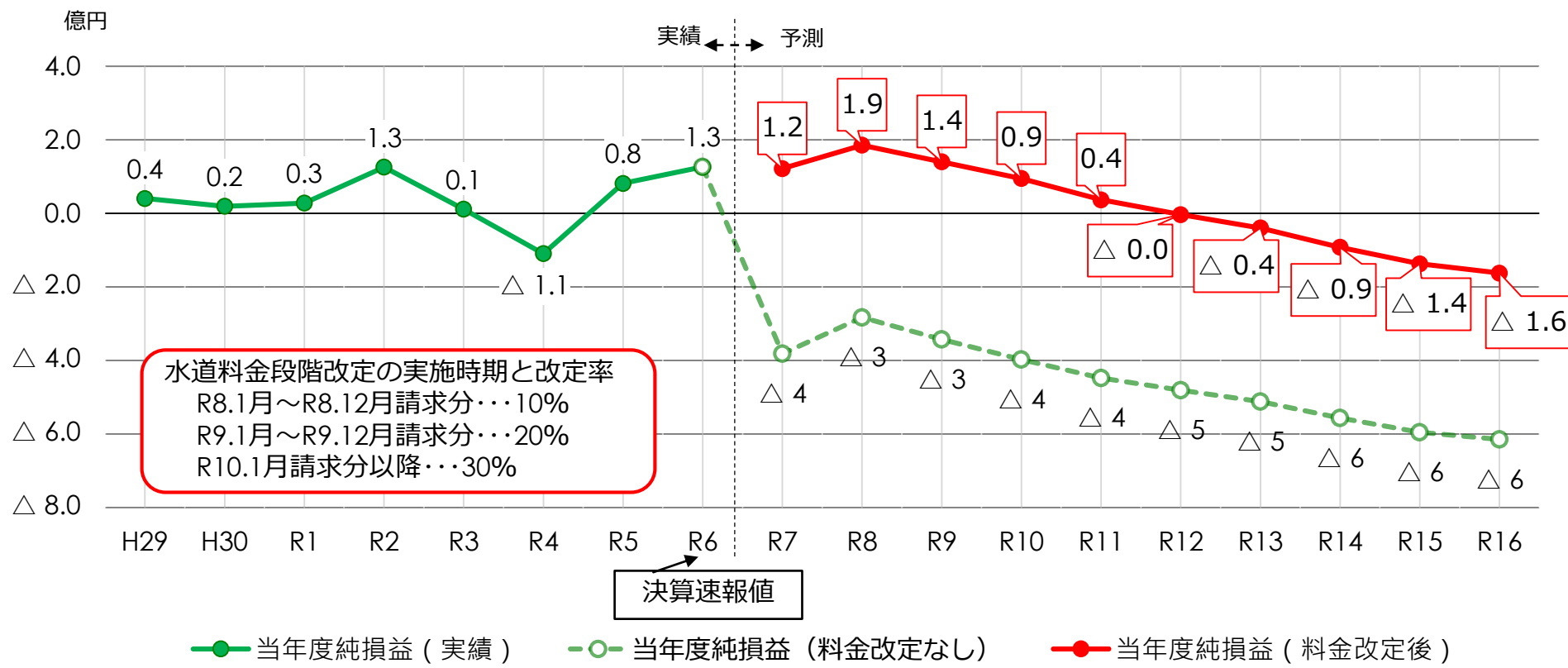
なお、水道施設の更新や耐震化の際には、国庫補助金の活用、企業債の借入額を増やし財源の確保に努めます。



水道料金増額改定後の経営状況（当年度純損益の見通し）

当年度純損益の見通しを料金改定を実施しなかった場合とで比較をしました。

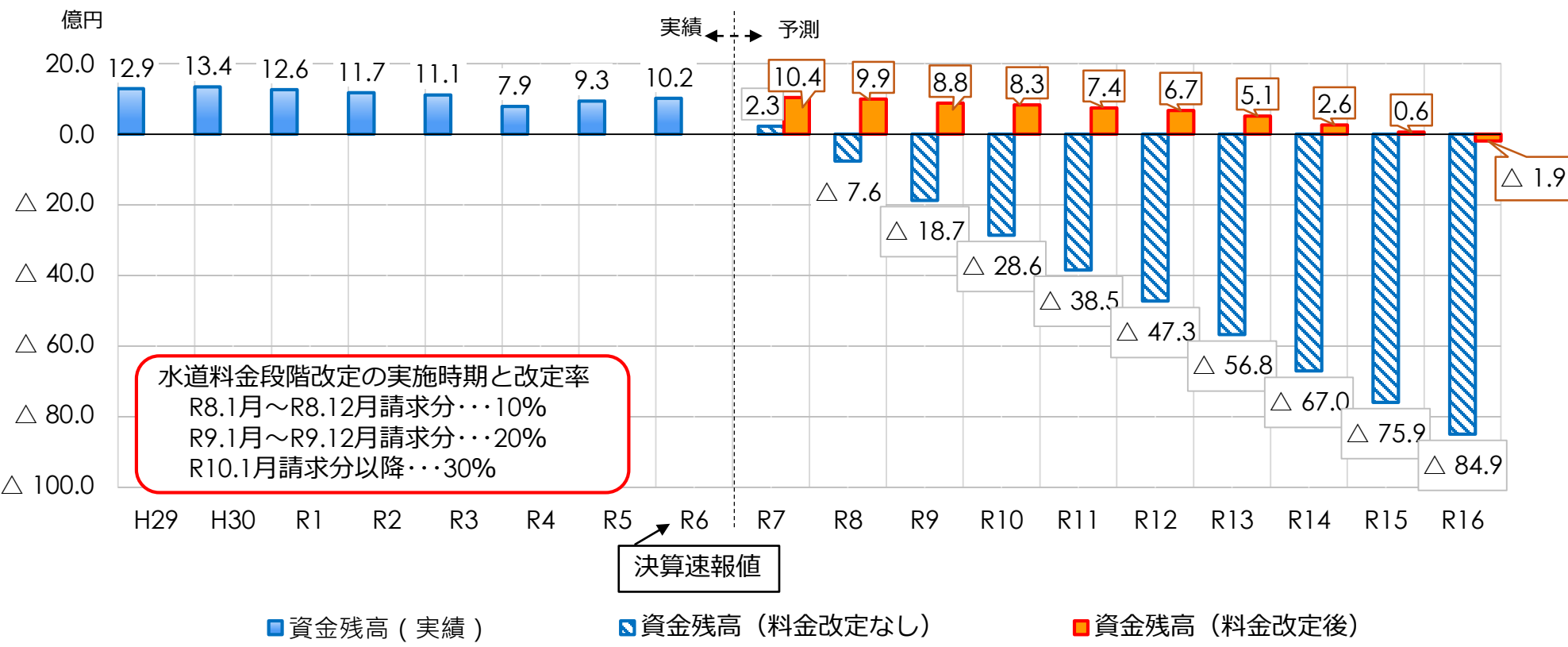
- ・**損益**…水道料金改定後も当年度純利益（黒字）となりますが、**令和12年度以降当年度純損失（赤字）が発生する見通し**です。引き続き**費用削減策に取り組み、新たな費用削減策を検討**します。
- ・令和12年度に当年度純損失が発生する見通しであるため、経営状況を分析し令和10年度から11年度に収支計画の見直しを上下水道事業経営審議会でご審議いただく予定です。



水道料金増額改定後の経営状況（資金残高の見通し）

水道施設の更新や耐震化の際には、**国庫補助金の活用、企業債の借入額を増やし財源の確保に努めます。**
これらを踏まえた資金残高の見通しを料金改定を実施しなかった場合とで比較をしました。

- ・ **資金残高…令和7年度以降増加し、令和15年度末まで維持ができる見通しです。**
- ・ 令和13年度以降の資金残高では、**日々の運営に必要な資金残高（料金収入の30%の約6億円）の確保が難しい見通し**であるため、経営状況を分析し、令和10から11年度に収支計画の見直しを上下水道事業経営審議会でご審議いただく予定です。

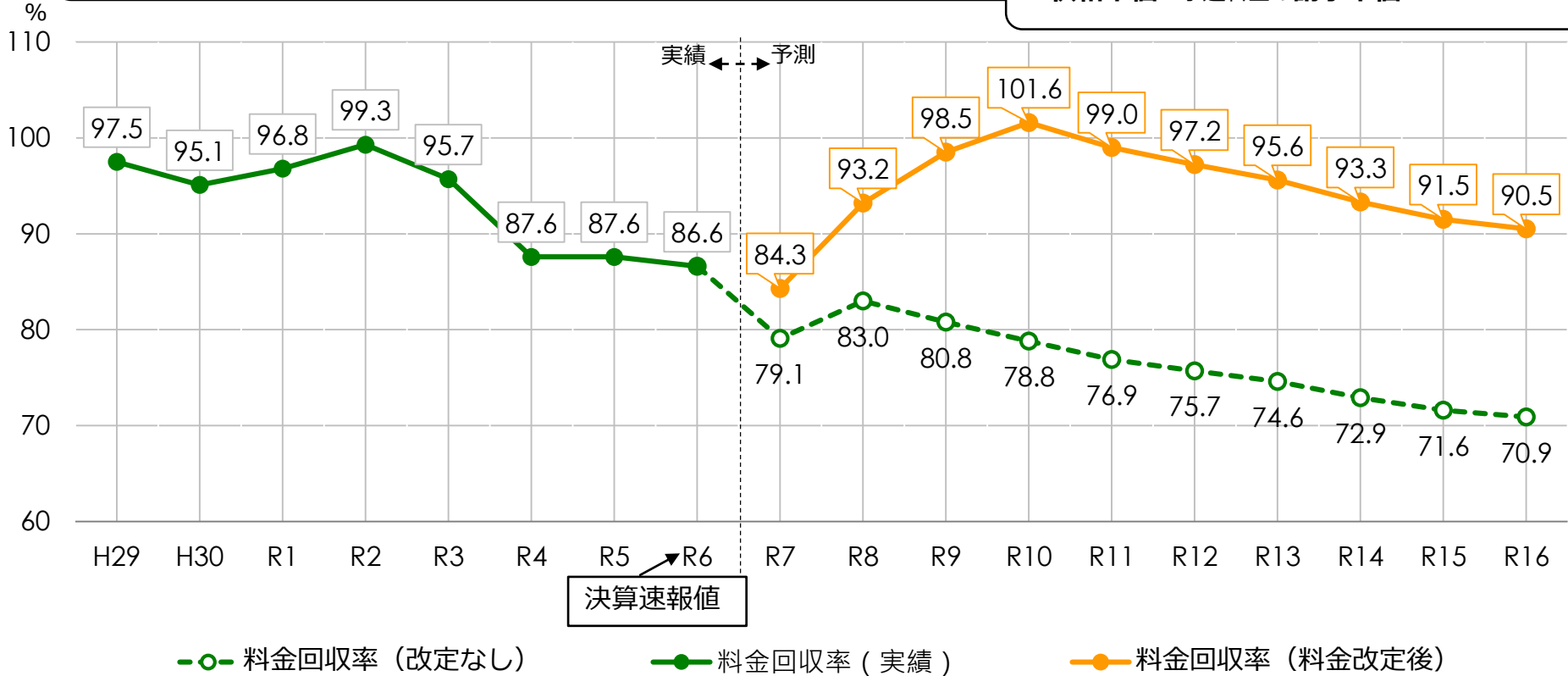


水道料金増額改定後の経営状況（料金回収率の見通し）

水道料金の増額改定により、**料金回収率は改善され令和10年度に100%以上となる見通し**です。
物価高騰、設備投資による減価償却費の増加、企業債借入額の増額による支払利息の増加により**令和11年度以降は100%を下回る見通し**です。今まで取り組んできた**費用削減策を引き続き実施**するとともに、新たに**水道施設の統廃合、ダウンサイジングなどを実施し費用の削減**につなげてまいります。

・ **料金回収率** = 水道水をお届けするための**費用**が**料金収入**で賄えているかを表す経営指標
= 供給単価 / 給水原価 × 100 **100%以上が望ましい。**
※ 料金の請求額と料金を収納した割合（収納率）ではありません。

・ **給水原価** = 水道水をお届けするためにかかる**費用**
・ **供給単価** = 水道料金の**請求単価**



増額した水道料金の使い道と今後の水道事業

令和7年度から令和9年度にかけて年10%ずつ3年間にわたり段階的な水道料金増額改定後の経営状況についてご説明しました。増額した水道料金の使い道と今後の経営について

水道施設の更新や耐震化を進めます

- ✓ 水道管を7Km/年更新と耐震化
- ✓ 設備を計画的に更新
- ✓ 配水池の耐震化など

料金改定以外の資金の確保

- ✓ 水道施設の更新の際には、企業債の借入額を増やします
- ✓ 国庫補助金を活用します

- ✓ **損益状況**：料金増額改定後も当年度純利益（黒字）となりますが、**令和12年度以降当年度純損失（赤字）が発生の見通し**
 - ✓ **資金残高**：令和15年度まで資金不足とまらない見通しですが、**日々の運営に必要な資金残高（料金収入の30%の約6億円）の確保が難しい見通し**
 - ✓ **料金回収率**：料金回収率は改善し、令和10年度は100%以上となるが、令和11年度以降100%を下回る見通し
- ※物価高騰による維持管理費用、設備投資に伴う減価償却費の増加、企業債の借入額を増額することによる支払利息の増加が主な要因

新たな費用削減策の検討

- ✓ 広域化・資材の共同購入等の検討
- ✓ 人口減少を見据えた施設の統廃合、水道管路再構築（ダウンサイジング等）
- ✓ 省エネポンプへの置き換えによる動力費削減

- ◆ 毎年度経営状況を分析し公表します。
- ◆ 費用削減策を引き続き実施します。
- ◆ 5年毎に収支計画の見直しを行うため、上下水道事業経営審議会でご審議をいただきます。

今後の整備計画（令和 7年度～ 16 年度）

水道料金の見直しによって、料金収入が10年間で41.4億円増加します。それを財源に、水道施設の更新や耐震化を進めます。なお、管路の更新や耐震化の際には、補助金を積極的に活用し、借金（企業債の借入）を増額します。

管路更新目標 7km/年

老朽施設更新（機械・電気・計装設備）	43.9億円
老朽施設更新（配水池）	2.7億円
施設耐震化	7.8億円
ポンプ場更新	6.6億円
遠方監視機器更新	4.2億円
管路耐震化	2.0億円
老朽管路更新	53.9億円
道路改良事業等に伴う水道管路改良	6.6億円
浄水場浄水機能改善	2.1億円

▼老朽化した管路



▲漏水の多発

そのほかの説明資料等は、HPでご覧いただけます。



お問い合わせ先：中津川市環境水道部 水道経営課

TEL : 0573-66-1111 (内線516、517) FAX : 0573-65-7626
E-mail : keiei-sui@city.nakatsugawa.lg.jp